

在宅血液透析（HHD）普及のために～啓発活動の重要性～

長崎腎病院

船越 哲 田賀農恵 植木秀一 中山美季 羽田鮎子 佐藤泰崇 林田征俊
久保純子 白井美千代 丸山祐子 原田孝司

【背景】

HHD は施設血液透析と比較すると生命予後や社会復帰など様々な利点があるものの、様々な理由により普及は進んでいるとは言えず、当院でも10年前より取り組んでいるが現在HHD 施行患者は5名にとどまっている。

【目的】

当院でHHD 普及が遅れている原因を、通院血液透析患者への情報提供を通じて解析する。

【対象・方法】

当院の外来維持血液透析患者総数名の458名うち、適応基準に沿ってリストアップした患者56名個々に情報提供を行い、HHDの妨げとなる理由を解析、対策を検討する。

【結果】

導入の妨げとなる理由としては、1位は介助者に関する問題（介助者不在・協力が得られないなど）が28名50%であったが、意外に2位は「現状の施設透析に不自由を感じていない」が13名23.2%であり、自己穿刺や事故などの不安や心配は11名19.6%に留まった。

【考察】

一般にHHDを躊躇する理由は自己穿刺や透析装置の操作などと言われているが、今回の調査でHHDの利点に関する関心の低さが推定され、多くの患者にとって魅力ある治療法と感じてもらえるよう、HHD啓発の重要性が示唆された。